

賛助会員紹介

Introduction of Supporting Member

株式会社 ソリッドレイ研究所 この世界の片隅で

営業部

佐藤 崇文



人間にはどうしても抑えきれない衝動がある。

ボタンがあったら、押してみたい。

のれんがあったら、チラッとくぐってのぞいてみたい。
穴があったら、そっと指を入れてみたい…。

誰でも一度は経験したことがあると思う。なぜだか理由は分からない。でもそういう感情が湧いてしまう不思議な生き物だ。普段は理性で蓋をしていますが、心の奥底からふと溢れ出てしまう。

感情や衝動は目には見えない、知覚できないものだ。でもそんな不確かなものを抱えた人間が世の中に沢山いて、学校や会社に集まり、コミュニティを作り、経済活動しているわけだから、この現実世界は一見正しいようで、実はすごく奇妙でいびつな形をしていると思う。時々、ニュースでびっくりするような変な事件が起きるのは、そんないびつな現実世界のほころびなのかもしれない。

よくVRは現実世界と対比して仮想現実と訳されるが、現実世界のほうがよっぽど胡散臭くて、不条理だ。むしろVRはそんな現実世界を疑ったり、紐解くための武器の一つだと僕は思う。

世の中に様々なVRがあるけれど、中身がないとすぐに崩れて、埋もれてしまう。中身というのは、表面的な技術のことでなく、もっと奥底にある哲学のことだ。余計なものをそぎ落として残った芯の部分で、それはシ

ンプルであればシンプルであるほど良い。

ソリッドレイ研究所のVRは、あるひとつのシンプルな哲学に基づいて作られている。それはコンピューターの中に現実世界と同じ空間を制作し、プロジェクタやHMDを使用してそれを実寸大で再現すること。

時代とともに、表面的なテクノロジーが変わることはあれど、その根幹は変わらない。

僕らはこの哲学に基づいたVRを武器に、世の中の色んなところへ突き進む。奇妙でいびつな現実世界を、僕たちなりのVRで切り開いていく。でもいまはまだその旅の途中だから、一緒に戦ってくれる仲間を探している。

こんな世界で仕事していて面白いの？って思う人もいるかもしれない。いびつで不条理な世界だけど、だからこそ心にグッとくることもある。

数年前に会社で脳波が取れるデバイスを開発した。人の感情が動いたときに、ピコピコと光る変な形のデバイスだ。正直全然売れなかったが、一個だけとある大学の医学部が面白そうと言って興味本位で買ってくれた。

すると後日、購入した先生からいきなり電話が掛かってきた。話を聞くと、先生が診ていた患者さんに筋弛緩症の男性がいて、筋弛緩症とは簡単にいうと、脳から手足を動かせという命令がうまく伝わらず、力が弱くなり、

やがて筋肉が衰えて動かせなくなっていく病気だ。

先生の患者さんは顔の表情すらも動かせない状態で、ずっと入院生活をしており、その奥さんは話し掛けても何の反応もない旦那さんを、何年間も献身的に世話していた。

先生が奥さんの気分を晴れやかにしようとちょっとした遊び心で、患者にそのピコピコする変なデバイスを着けてみた。最初は何の反応もしていなかったが、ふと奥さんが旦那さんの名前を呼んでみたら、なんとそのデバイスがピコピコと光ったのだ。その瞬間、奥さんは涙が溢れて、その場に泣き崩れてしまった。

いくら話し掛けても反応しなかった旦那さんが、か弱い光だけど反応したことが嬉しかったのだ。何の見返りもなく、ただひたすらに旦那さんの傍に寄り添っていたけれど、そのことに気づいていたんだと分かって、もうたまらなくなってしまったのだ。

もはやそこには言葉すらなく、ただ光がピコピコと点滅するだけで、お互いのお互いを思いやる気持ちが分かりあえていたのだ。

その話を聞いて気付いたら、僕は電話越しに受話器を握りしめながらボロボロと泣いていた。感情がひどく揺



さぶられて、そのあとの仕事や出来事はまったく覚えていない。

時にはそんなことにも巡り合うこのいびつで不条理な世界が、僕は結構好きなのである。

連絡先

会社名	株式会社ソリッドレイ研究所
所在地	神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-20-1 YTUビル5F
電話	045-324-3841
FAX	045-324-6925
E-Mail	pro@solidray.co.jp
URL	www.solidray.co.jp
